

富山県美術館 企画展ポスターの 新しいデザイナーについて

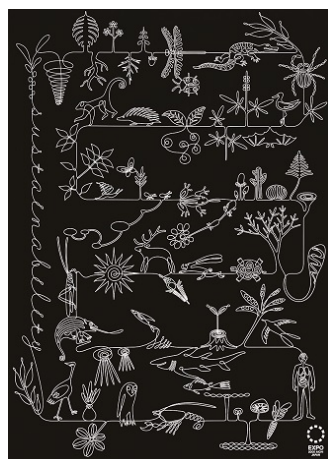
富山県美術館（TAD）2019年度の第2企画展「日本の美 美術×デザイン 琳派、浮世絵版画から現代へ」より、富山県美術館のポスターのデザインを、グラフィック・デザイナーの三木健氏が担当することとなりました。（2016－18年度はグラフィックデザイナーの佐藤卓氏が担当。）

三木氏は、大阪を拠点に国内外で活躍するグラフィック・デザイナーであり、昨年の「ポスタートリエンナーレトヤマ 2018（IPT2018）」においては、第一次・第二次審査員を務めていただきました。国内外でのポスター受賞や展覧会出展を重ねるなか、当館のIPTにおいても何度も入選を果たすとともに、IPT2006では銀賞を受賞されています。

今回、三木氏が手掛ける企画展「日本の美」のポスターでは、テーマである“日本の美”を“琳派、浮世絵版画から現代へ”までを見つめる多彩な視点で表現されたとのこと。琳派や浮世絵から飛び出し、時空を超えて現れた目がこちらを見つめて美術館へと誘います。

精緻なデザインに新しい発見と驚きを仕掛ける三木氏の、これからの企画展ポスターにご期待ください。

【三木 健 Ken Miki】



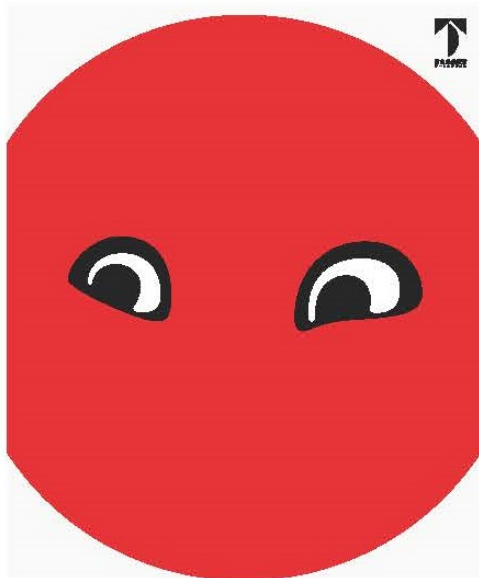
1955年神戸生まれ。1982年三木健デザイン事務所設立。話すようにデザインを進める「話すデザイン」と、モノやコトの根源を探る「聞くデザイン」で、物語性のあるデザインを展開。「気づきに気づく」をテーマに、静かな表現の中にエモーショナルなコミュニケーションを潜ませる仕事の特徴的。近年、学びをデザインするプロジェクトAPPLEを展開。そのユニークな教育メソッドに注目が集まり、英・中・韓・日の4ヶ国語で書籍APPLEが上梓される。2015年から国内外の美術館、ギャラリーでAPPLE+展を巡回。それら一連の教育プロジェクトを背景にもつポスターで第18回亀倉雄策賞を受賞。2018年春、大阪芸術大学図書館内にAPPLEの常設展示室と教室を併設した「りんごデザイン研究所」が開設される。JAGDA理事、東京TDC、AGI会員。大阪芸術大学教授。
三木健デザイン事務所ウェブサイト：<http://ken-miki.net>

写真・上：三木健氏

写真・下：三木健氏 IPT2006 銀賞受賞作品

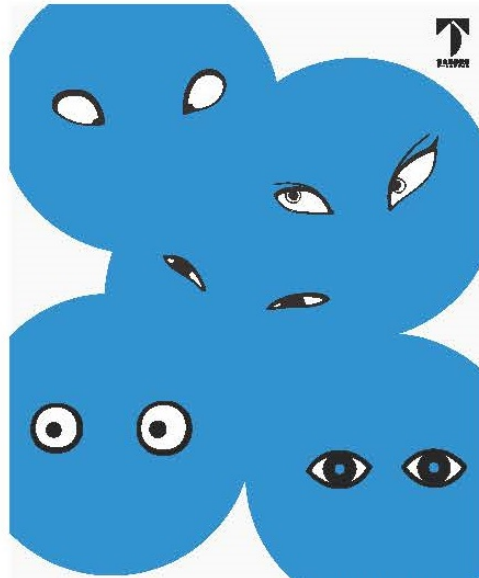
《Sustainability for Expo 2005 Aichi》（愛知万博）

【「日本の美 美術×デザイン -琳派、浮世絵版画から現代へ-」のポスターデザインについて】



日本の美 美術×デザイン【琳派、浮世絵版画から現代へ】
2019年8月10日(土)~10月20日(日)
Beauty of Japanese Art and Design From Rimpa and Ukiyo-e to Present Art
August.10th - October. 20th, 2019

日本の美 美術×デザイン -琳派、浮世絵版画から現代へ-



日本の美 美術×デザイン【琳派、浮世絵版画から現代へ】
2019年8月10日(土)~10月20日(日)
Beauty of Japanese Art and Design From Rimpa and Ukiyo-e to Present Art
August.10th - October. 20th, 2019

ポスター Design:三木 健

このポスターは、琳派の創始の一人、俵屋宗達の《風神雷神図》や浮世絵師、東洲斎写楽の《市川鯉藏の竹村定之進》や喜多川歌麿《青樓七小町 若那屋内白露》など、本展への出品はなくても、琳派、浮世絵版画的アイコンとしてよく知られている絵画や版画の中から目のみを抽出しています。もちろん、今回の展覧会に出品される作品の目もふくまれています。

多様な目をポスターに用いたのは、展覧会のポスターにおいて今回のテーマ『日本の美』を「琳派、浮世絵版画から現代へ」までを見つめる多彩な視点を表現したいという思いからです。時間や空間を超えた目を抽出すると現代のポスターから漫画、アニメーション、現代美術へと脈々と繋がる日本文化を垣間見ることができます。

今回は、赤と青、2種類のポスターを制作しました。青のポスターのなかには、富山県美術館のキャラクターであるミルゾーの目も登場しています。ミルゾーの生みの親、永井一正氏のポスターも本展で紹介されますが、ミルゾーの目は永井氏に代表される現代のクリエイションを象徴するものであるとともに、この展覧会が富山県美術館から「日本の美」に向けたまなざしであることも象徴しています。

三木 健